

## 心理臨床家としての自立的・自発的思考の育みを目指した授業実践

教育実践総合センター・信原孝司

### 1. 授業の概要

本授業では、臨床心理面接の専門性について、特に精神分析的心理療法の側面から学び、理解を深めることを目的としている。また授業の到達目標は、心理臨床の専門性に関する知識を習得して理解を深め、今後の臨床実践に備えることである。この科目は、臨床心理士を目指す大学院学生（学校臨床心理専攻臨床心理学コース）の必修科目であり、履修者の全てが臨床心理士資格の取得を目指して履修している。

授業では、初回に授業内容と進行予定を（シラバスを下敷きとして）提示している。これは、学生が前期の見通しを持って予習に取り組み、関連した項目の復習に取り掛かりやすくなることを意図している。以下は今年度の講義内容である。

- (1) オリエンテーション
- (2) 精神分析について
- (3) 臨床心理面接での問題理解と面接構造
- (4) (3)の続き、臨床心理面接における技法
- (5) (4)の続き
- (6) 映画を通して臨床心理面接を考える 1
- (7) ディスカッション
- (8) 心理療法の初期面接
- (9) 心理療法の基本技法 - 質問・明確化・直面化・解釈 -
- (10) 面接中期 - 転移・逆転移
- (11) 面接終期 - 抵抗・気付き・ワーキングスルー
- (12) 映画を通して臨床心理面接を考える 2
- (13) ディスカッション
- (14) 心理臨床トピックス
- (15) 前期振り返り・レポート提出

### 2. アンケート結果

学生が提出したレポート中の授業評価を中心に以下に振り返った。学生からのコメントでは、授業内容や授業方法については評価が高かった。また、心理臨床課題を考える映画の視聴とディスカッションという構成は支持が多かったため、今後もこの授業形態を継続したい。

以前は質疑やディスカッションの方法や時間配分に課題があった。今回は小グループによる

短時間のディスカッション形式を取り入れたことにより、実りある意見交換になったとの評価を得たが、時間配分が不十分な時もあり、今後の継続的な課題である。

### 3. 学生の自立的・自発的思考の育みを意図

授業では、学生の自立的・自発的思考の育みを意図して、担当者と学生とのやり取りが出来るだけ双方向となるように意識した。例えば、毎回の授業の最後には、学生からの質問を受け付けた。質問には担当者が全て答えてしまうのではなく、学生達とディスカッションし、曖昧な部分には学生の発言を促すように配慮した。

### 4. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

臨床心理面接の対象であるクライアントは地域社会の住民であり、相談内容には地域性を感じる相談内容もある。しかし守秘義務に関わる内容も多く、授業として取り上げる難しさを感じている（その場合、心理教育相談室のカンファレンスで取り上げるように配慮している）。

### 5. 総括

授業では講義内容で取り上げる時間に偏りがあることや、ディスカッションが長引いて次回に延長する場合もあったが、授業予定を柔軟に組み直して対応した。課題としては、ディスカッションから派生するテーマを、次回授業で取り上げることが出来れば、より自立的・自発的な理解に繋がったかも知れない。

なお、本授業の最終レポートの課題は次の3点。(a)前期授業から臨床心理面接について一番学んだと思う点にタイトルを付け、その内容を考察せよ、(b)授業で学んだことを踏まえて映画をあなた独自の臨床心理学的視点から考察せよ、(c)授業評価として前期授業の実施内容・方法についての感想を自由に書いて下さい。

(a)で授業全体を振り返り、(b)で自立的・自発的な思考を文章化するよう意図した。(c)では学生の声を来年度の授業に反映させる意図があったが、評価に関わるレポートでは伝え難い部分があったかも知れない（評価対象外であることを示す等の工夫も考えられる）。